

12月中には新しい校名が決定

新中学校校名候補の選定について

平成22年4月に開校する新しい中学校2校の校名について、飯山市中学校統合推進委員会並びに同委員会校名等検討部会にて検討を行い、2つの校名候補を選定しました。今後、中学校統合推進委員会にて更なる検討を行い、12月中に新しい中学校2校の校名候補が決定されます。

新中学校の校名候補



現 第一中学校校舎
飯山・秋津・木島小学校区



現 照丘高校校舎
泉台・常盤・戸狩・岡山・東小学校区

候 補 1

飯山市立 ^{じょうなん}城南中学校
(現 第一中学校校舎校地)

飯山市立 ^{じょうほく}城北中学校
(現 照丘高校校舎校地)

上杉謙信が築いた「信越最後の砦」として鉄壁の守りを固めていた当市のシンボルの一つとなっている「飯山城」。この飯山城のように、中学校も四季の変化に富み、新しいまちづくりの発展が望める優れた地域、教育環境下において、豊かな感性とたくましい心と身体を育て、ふるさとの未来をもひらく生徒の育成の場となるよう願いが込められています。

候 補 2

飯山市立 ^{りょうなん}陵南中学校
(現 第一中学校校舎校地)

飯山市立 ^{りょうほく}陵北中学校
(現 照丘高校校舎校地)

上信越国境の山々に囲まれた飯山盆地。その中央を流れる千曲川と平行して走る長峰丘陵は飯山を象徴する風景の一つとなっています。身近に自然・歴史・文化が感じられ、ふるさと飯山を見渡すことができる陵（おか）で学ぶことにより、豊かな感性とたくましい心と身体を育て、ふるさとの未来をも切り開く生徒が育成される学校となるよう願いが込められています。

岡山地区土倉出身の桑原定男さん

「ふるさと飯山の子供たちのために」1億円を寄付



△「教育のために活用して欲しい」と多額の寄付をいただいた桑原さん(写真右)

桑原定男さん(83歳)が9月18日に市役所を訪問され、飯山市に1億円を寄付されました。郷里を旅立たれた後も、ふるさとで学んだ先生の教えを大切にされ今日まで仕事一筋で頑張つてこられたという桑原さん。東京で苦勞を乗り越え事業に成功され、ふるさとへの恩返しにと、このたびご寄付いただいたものです。

この日、石田市長と懇談された桑原さんは、「ふるさとの子供たちのために使つてほしい」と話されてこのお金を託されました。飯山市では、桑原さんのご意思を尊重し、地域の子供たちのために大切に使用させていただきます。多額の浄財をご寄付いただきました桑原さんに心より感謝申し上げ、市民の皆様にご報告いたします。

26年度中の金沢駅までの開業、早期の全線着工を要望

新幹線建設促進のための中央要望を実施

10月1日、北陸新幹線北信広域建設推進協議会(会長・石田正人飯山市長)と北陸新幹線飯山駅周辺まちづくり市民協議会(会長・清水長雄飯山市区長会協議会長)は、北陸新幹線建設促進のための中央要望活動を合同で行いました。

これは、北陸新幹線の平成26年度中の金沢駅までの開業と、大阪までの早期全線着工を政府や関係省庁に

求め陳情したものです。陳情団はまず、横浜市の鉄道・運輸機構の本社を訪問。建設促進に向けた要望活動と情報交換を行いました。その後、東京へ移動し、国土交通省、財務省、総務省の各大臣、県選出国会議員、麻生総理大臣はじめ政府与党関係者等への要望書を提出しました。



△要望活動は2班・24名が参加し行われました

ル全貫通や、今年6月の飯山駅高架橋工事着工など、いよいよその槌音が大きくなつてきています。両団体では、北陸新幹線の建設促進活動に引き続き取り組んでいきます。

校名候補選定の経過

新中学校の校名選定にあつては、まず5月から6月にかけて、市内全戸およびすべての小中学校に校名募集のチラシを配布したほか市ホームページでも校名を公募。630人の皆さんからご応募をいただきました。応募いただいた校名の中から、校名等検討部会において検討を行い、①最も投票の多い校名②立地形状から考えられた校名③シンボリックな校名④イメージ的な校名の選考基準より「南中学校・北中学校」、「陵南中学校・陵北中学校」、「城南中学校・城北中学校」、「清峰中学校・明峰中学校」の4組の校名候補を選定。7月にはこれらの校名について小・中学校のお子さんのご家庭にアンケートを実施

しました。このアンケートの結果、最も多かったのが「城北・城南」(得票率36%)、次が「陵北・陵南」(同29%)で、他の2つの校名は得票率10%台にとどまりました。

部会・統合推進委員会において、このアンケート結果を分析し更なる検討を行った結果、「城南・城北中学校」、「陵南・陵北中学校」の2つが最終的な校名候補として選定されました。今後は市報を通じ、市民の皆さんに広くお知らせしながら、推進委員会で更なる検討を行い校名候補を決定したいと考えています。

お問い合わせ
教育委員会事務局
子ども課学校教育係
(統合推進委員会事務局)
☎0263-111 内線361

市長の

悠久のふるさとづくり ⑤

飯山市長 石田正人



台風の影響もなく秋を迎え、飯山の里は黄金色の稲穂が波打ち、百姓の喜びを表すように大きく揺れています。各小学校では運動会が行われました。子ども達のはしゃぐ姿をみると、自分の小学生時代を思い起こします。

当時は食料を作るため、青年団や村の人の手でグラウンドが耕されサツマイモやトウモロコシが作られました。また至る所に穴が掘られ防空壕が造られていました。運動会といつても、秋の忙しい時期は家族の誰か一人が行くことができれば良い方でしたが、それでも運動会となれば栗や豆を茹で、サツマイモをふかし、庭先のブドウを切って、母が握ってくれた特別大きなおむすびや運動会でもなければ食べれないゆで玉子などを持って出かけました。そして稲刈りに忙しい両親にかわり、ばあちゃんが敷ぎ一枚を持って応援に来てくれました。近所の人が料理を分け合い、「俺ら家の芋はうまい、栗がうまい」と言いながら食べた運動会の料理が本当においしかったことを思い出します。米・野菜・卵…。すべて自給自足の時代でした。

それが今、毎日のように食料問題が報道されています。今日、日本の食卓は中国産の製品により多くがまかなわれており、子ども達の健康も知らぬうちに脅かされている危険性もあります。主食である米が年間70万トンも輸入されていますが、この米が輸入されなければ日本の農家は減反をしなくてもいいはずなのです。先人が残してくれた田畑を荒らさずに済むはずなのです。

私たちの頃と違う、家族が揃って参加する現代の運動会を見て改めて考えてみました。少し「ずく」を出し休日は家族揃って田んぼへ出かけ米を作り、自給自足をしよう。将来のために、子どものために、健康のために！